# 加納久宜の「遺徳碑」

この石碑は、加納久宜（一八四八～一九一九）の死後にその恩徳を後世に伝えるため、大正十年（一九二一）六月、入新井町と信用組合によって、この小学校に建てられました。

加納久宜は、幕末の上総（千葉県）一宮藩主の時、率先して私領返上、廃藩置県を提唱し、明治時代には産業・経済の振興につとめた指導者として、全国的に活躍した人物です。鹿児島県知事や、帝国農会初代会長なども務め、農事改良などに貢献しました。子爵であったため、加納公と呼ばれます。

現在の山王公園前（山王三丁目三一番）に屋敷があり、明治三十三年（一九〇〇）から入新井村の学務委員を務め、信用組合を設立するなど、地元の教育普及や産業振興に尽力しました。かつては貧しい村だった入新井村を、模範的な村に変えた恩人として、村人からは父母のように慕われたといいます。

大正八年（一九一九）、七十二歳で没し、墓所は谷中墓地にあります。

碑文から

大田区教育委員会

490（見えしろ 484）


| | | | |
|---|---|---|---|
| 件名：51-1572_加納久宜公遺徳碑案内板設置工事 | | | 作成日： 2026.09.04 |
| 営業：根城（東京） | 制作：西園 | 印刷：アポフォト | 更新日： 2026.00.00 |


■ 本レイアウトの表示内容及びデータに関する著作権は、株式会社アポック社及びその他の権利者に帰属します。内容確認以外での無断転載・転用・改変等の行為は、著作権法により禁止されています。 ■ オフィスプリンタでの出力見本、ディスプレイ上の色表示、及び実際に制作される表示板の色味は、機器性能・素材特性・印刷仕様の差異により一致しない場合があります。あらかじめご承知おきください。